六郷の総鎮守

# 六郷神社崇敬会会報

15

平成8年12月発行

穴をあけて綴じてください

新しい芝生の苑での献木式添釜

―撮影・吉田恒男氏―

## 初詣

## 崇敬会会員の昇殿参拝

**平成9年1月3日 午前10時30分（第1回）**
**午前11時30分（第2回）**

1月3日の午前10時30分と11時30分の2回、崇敬会会員とその家族にかぎり、昇殿参拝の式をおこない、神社から神酒と特別な御礼が授与されます。

崇敬会では、新春記帳所を設けますので、ご記帳のうえ、御供物をお受け取りください。なお境内には、甘酒進上の席も用意いたします。多数ご参拝ください。

なお恒例の**流鏑馬祭**は1月7日午後1時より境内で。また第20回**六郷のどんど焼き**は、六郷橋下流300mの河原で1月7日午後1時30分点火。

## 今年は「しだれもみじ」献木

きれいに芝生が根付いた旧社務所跡の庭苑で、第7回創立記念日の十一月三日、献木式と添釜が行われました。今年は「しだれもみじ」を奉納。つづいての御茶会には七五三の親子連れも次々と緋毛せんの席について、文化の日にふさわしい行事を楽しんでいました。

# 六郷神社境内の石造物あんない　その1

**六郷神社の境内には、さまざまな古い石造物がありますが、本号ではその主なものに刻まれた銘文を紹介するとともに、若干の解説を試みました（平野順治記）。**

## ○高木伊勢守寄進の手水鉢

天和三癸亥歳五月日
奉寄進御手水鉢
従五位下
高木伊勢守源守養

高木正次は長久手の戦い、小田原陣の功により、徳川家康から荏原郡に采地千石を賜わったが、のち弟の守次に譲る。守次の子守久は万治二年（一六五九）初代の道中奉行となる。守養は守久の子で、天和二年（一六八二）十月大目付、同年十二月従五位下伊勢守に叙任。五千石の旗本。元禄十二年（一六九九）没、六十歳。その子守興も伊勢守に叙せられ、享保四年（一七一九）六郷八幡の本殿建立に際し、家中一門とともに二両五百六十七文を寄進している。総工費が約二十両であるから、その一割に当たる。なお、観乗寺の境内地は、道中奉行守久の陣屋跡といわれる。

## ○八幡塚村北町寄進の石燈籠

（右竿石）
八月十五日
奉造立石燈籠為二世安楽也
貞享元年
甲　子
（左竿石）
同行廿五人
願主敬白
奉造立石燈籠為二世安楽也
八幡塚村北町
〈寄進者名省略〉

貞享元年（一六八四）とは五代将軍綱吉の時代で、花の元禄を迎える直前である。貞享五年が元禄元年となる。東海道に沿って八幡塚村は南町、中町、北町の三町に分かれていたが、六郷の渡しに近い南町は同年十一月に北野天神に手水鉢を、中町もまた翌年八月に狛犬を六郷八幡に寄進している。

## ○八幡塚村中町寄進の狛犬

呵形台石（正面）

奉納
御神
前二世
安楽
之所
（背面）
当中町
（左側面）
貞享
二乙丑天
九月三□
同道
十七人
願主
欽言

奉納
御神
前二世
安楽
之処
（右側面）
石屋
三右衛門
欽言
願主
十七人
同行
九月三日
二乙丑年
貞享
〈寄進者名省略〉

吽形台石（正面）

大田区における最も古い狛犬として区の文化財に指定されている。一般の狛犬と異なり、独特なユーモラスな姿をしており、造形的にもおもしろく芸術性が高い。古くは本殿前に北町寄進の石燈籠とともに並んでいたが、現在は庭苑の中に置かれている。

## ○明和六年鳥居建立記念碑

（表面上段）
天下泰平　往来処々助力者
奉造立花表総氏子
国家安穏　息災延命所
（表面中段）
八幡塚村
村々名主連名
竹内七蔵
塩田嘉七
町谷村
川野瀬兵衛
高畑村
森藤蔵
古川村
前島五左衛門
雑色村
川田太郎左衛門
（表面下段）
道塚村（右衛門）
多田新□□□
平井清右ヱ門
大師河原村
池上太良右ヱ門
同　七左衛門
羽田村
西匂四良右衛門
羽田猟師町
鈴木小源治
同
伊東仙五良
南川原村
大須賀□□□
（庄兵衛）
（背面）
石鳥居当村世話人連名〈十五名省略〉
（右側面）
明和六己丑稔　別当宝珠院　発願　宥照
現住　栄弘
（左側面）
大工善兵衛
石工佐兵衛
同　長蔵
同　元次良

明和六年（一七六九）に華表すなわち鳥居を建立したときの記念碑である。「村々名主連名」により、当時の氏子が六郷六ヵ村にとどまらず、大師河原村、羽田村、羽田猟師町、南河原村にまで及んでいたことが分かる。江戸期を通じて宝珠院が別当寺であった。

## ○富士講の歌碑

中教正　宍野　半詠

六郷の領の有志の人等
井戸をほりたる水いと
清ければ言祝て
富士嶺の黄金の
井戸のその水を
此の神井に
移しけるかも

六郷講社

明治十五年（一八八二）八月の造立。発起人小泉八郎左衛門、大先達山田三郎兵衛、祠官六郷幡麿。奉納者六十五名、周旋人二十名の氏名が背面に刻まれ、歌碑の脇には「神水」と彫った石造の井戸枠が保存されている。

宍野半は薩摩の郷士、平田鉄胤の門に学び、明治五年、神道宣布の教部省に出仕したが、翌六年官を辞し、富士吉田の浅間神社宮司となって富士講社の大同団結をはかり、皇典講究所（国学院大学の母体）の創設にも力を尽した。明治十五年、神道扶桑教の一派を開き初代管長として活躍中、十七年五月十二日、四十一歳の若さで永眠した。

## ○中村石斎先生の褒徳碑

石斎先生は天保五年（一八三四）八月二十

日生まれ。東京府貫属士族。明治元年（一八六八）八幡塚村南町に移り住み、代田平五郎の長女加津子と結婚。寺子屋を開く。

明治九年二月四日、六郷小学校の開校とともに教員傭となり、三十五年三月まで教鞭をとった。その間のスパルタ教育はいまに語り伝えられるほど厳格であったが、この碑が在職中に建てられているのを見ても分かるように、人びとは「中村爺や」先生と親しみ、その人徳を敬慕してやまなかった。六郷教育界の先駆者である。明治三十八年七月十二日没。七十二歳。

世話人

八幡塚村　雑色村　高畑村　町屋村　古川村　道塚村

## ○忠魂碑

（正面）

石斎先生姓中村氏俗称介助石斎其
号素東京人温厚篤実有文事当我六
郷小学創設也先生尽力此校尋教授
生徒殆十年生徒益進四方薫陶於其
徳者亦不尠焉今我党之有志倶慕其
徳謀垂於不朽建石以勒

明治十六年夏七月

祠官　六郷幡麿

（背面）

忠魂碑

元帥伯爵　東郷平八郎書　花押

明治二十七八年戦役戦病死者（三名）
明治三十七八年戦役戦病死者（六名）
大正十四年七月建之

帝国在郷軍人会六郷村分会印

石工　竹内六之助刻
鳶　鈴
植　梅　新

大正十四年（一九二五）六月十二日、建設願を警視総監太田政弘、東京府知事宇佐美勝夫に提出。同年七月二十日竣工。当時の六郷村分会長は予備役陸軍歩兵少尉代田朝義。建設坪数八坪七合五勺。建設願には「右碑表建設ノ上ハ無条件ニテ神社所有ニ致スベク候」とある。

なお、今次大戦の戦病死者四百八十一名の氏名は銅板に刻まれ、背後の溶岩台石の間にはめこまれている。昭和六十一年十月、旧社務所東側の地から現在地に移転された。

## 寿　鈴木祐一祢宜ご結婚

六郷神社祢宜鈴木祐一（長男・三十二歳）さんは、去る七月六日、太宰府天満宮宮司西高辻信良・圭子ご夫妻の媒酌により、福岡県朝倉町出身の柳原栄子（二女・二十八歳）さんと、六郷神社の神前において結婚式を挙行。

引き続き品川パシフィックホテル・万葉の間で、両家の親族はじめ神社関係者、氏子総代、崇敬会、氏子青年会、新郎新婦の先輩友人ら約四百二十名が出席し、盛大な披露宴が催されました。

おめでとうございます。改めてお二人の前途を祝福し、末永いご多幸をお祈りいたします。

## ◆新入会員紹介

**東二**・㈱坂本ハウジング　**東三**・高橋文男　㈱日米商会　**仲二**・山中林蔵　**仲三**・白井友子　**西二**・㈲藤井塗装　水野利清　西川滋　**西三**・高橋準一

発行＝六郷神社崇敬会
〒144 大田区東六郷三-十-十八
六郷神社社務所内
電話　〇三-三七三一-二八八九
振替　〇〇一九〇-六-一一三五五三
編集＝平野順治